

獨協大学学士課程の教育目的・3つのポリシー

(目的および使命)

獨協大学（以下「本学」という。）は、教育基本法に則り学校教育法の定めるところに従って大学教育を施し、社会の要求する学術の理論および応用を研究、教授することによって人間を形成し、あわせて獨協学園の伝統である外国語教育を重視して今後の複雑な国内および国際情勢に対処できる実践的な独立の人格を育成することを目的とする。

学位授与方針（DP）

(学位授与要件、学位の種類)

本学は、「大学は学問を通じての人間形成の場である」という建学の理念を踏まえて、上述の目的に照らして、修業年限を満たし、各学部・学科において所定の単位を修得し、卒業時点で以下の能力および各学部・学科において修得すべき能力を身に付けた者に「学士（専攻分野を付記）」の学位を授与する。

(学位の裏付けとなる「能力」)

<知識と技能>

- ・歴史、文化、社会及び自然に関する幅広い教養と多文化・異文化に関する知識と理解を身に付けている。
- ・専攻する特定の学問分野における基本的な知識・技能とその体系的な理解を身に付けている。

<思考力・判断力・表現力等の能力>

- ・各学部・学科において所定の外国語について、「聞く」「話す」「読む」「書く」という4技能に関して、大学での学びに必要であり、かつ将来の国際的活動の可能性につながる言語運用能力を身に付けている。
- ・身に付けた知識・技能を総合的に活用して、問題を発見し、その解決に必要な情報を収集・分析・整理して、問題を解決することができる。
- ・問題解決に必要な情報や知識を複眼的、論理的に分析することができる。
- ・解決策とそこに至るプロセスを、文章であれ、口頭発表であれ、分かりやすい形で的確に表現することができる。

<主体性と協働性、市民としての社会的責任>

- ・問題解決のために、他者と協調・協働して行動することができる。
- ・主体的に考え、行動することができる。
- ・市民としての社会的責任を果たす能力を身に付けている。

教育課程の編成・実施方針（CP）

(カリキュラム)

本学では、学士課程全体あるいは各学部の学位授与方針に掲げる能力を養成するために、それぞれ特色のある外国語科目群（学部によっては全学共通授業科目に配置）、基礎科目群、専門科目群、演習科目群、全学共通授業科目群、免許及び資格課程（教職課程と司書・司書教諭課程。なお、教職課程は各学部の教

職関連科目群を参照)を配置する。

(外国語教育)

各学部(国際教養学部および経済学部を除く)・学科の第一外国語(英語、ドイツ語またはフランス語のうち各学部・学科が定める一言語)に関しては、主に学修の前半では「聞く」「話す」「読む」「書く」という4技能を総合的に修得し口頭および書き言葉での受容と産出の基礎能力を養成し定着できるようにする。学修の後半では4技能のより高度な能力を養成するための科目を配置し、当該言語を総合的に修得・理解し、多様な事態についてその言語で表現し議論できるようにする。

第二外国語では、学生の知的興味に応じて外国語の教養の幅を広げることができるよう、一般学術目的の英語およびその他の諸外国語の科目を全学共通カリキュラム外国語科目群の枠組みで配置し、そのうち各学部(国際教養学部および経済学部を除く)・学科の定める単位数を修得するものとする。

ただし、国際教養学部は第一・第二外国語を区別せず二言語(英語に加え、スペイン語・中国語・韓国語のいずれか一つ)を併修とし、経済学部は外国語を英語とし第二外国語の制度を設けない。それぞれの学修のプロセスは上記の第一外国語と同様である。

(教養教育)

建学の理念に基づき、学生の人間形成にとって必須と考える共通の教養を学科の専門性を越えて修得できるように、学部・学科を越えて編成される全学共通カリキュラムの枠組みで学際的学修が可能な全学共通授業科目を配置する。「ことばと思想」、「歴史と文化」、「現代社会」、「自然・環境・人間」の4つの分野に分け、授業形態では全学総合科目群(全学総合講座部門、全学共通講義科目部門、全学共通実践科目部門、スポーツ・レクリエーション部門)と外国語科目群(英語部門、外国語部門〔英語以外〕、日本語部門〔外国人学生および帰国学生用])の2科目群7部門とし、豊かな歴史観、自然観、倫理観および文化の多様性を中核とする教養を養成する。ただし、国際教養学部は教養教育と専門教育を差異化しないシステムを取るため上記の限りではない。

(専門教育)

学士課程では、本学で取得できる学位に関する専門知識を体系的に修得するため、各学部で基礎科目群、専門科目群、演習科目群を配置するとともに、それをコースまたは部門に分ける。

基礎科目群では、大学入学時から漸次学修を積み重ね、専門領域にスムーズに移行できるように入門、概論科目を配置する。また、初年次から学修意欲を高めるため、クラスアドバイザー制度を導入した少人数での基礎演習科目または外国語科目を配置する。

専門科目群では、専門的な多様な知識の修得により専門に段階的に深化しつつ専門分野での複雑な事柄を正確に理解できるようにするため、各コースや部門に合わせて体系的に科目を配置する。

演習科目群では、専任教員の開講するゼミナールに所属し、教員との個別指導や学生同士での協働作業をとおり、資料の調査能力、コミュニケーション能力や問題解決能力を養成し、さらには独自で研究課題を設定し、自らの言葉で的確に表現できるようにするため、演習(ゼミナール)を配置する。

(教職課程)

中学校・高等学校での各教科・科目の教育を実践できるようにすることを教育目標として、各学部・学科で当該教科の教職免許に必要な科目の指導法を修得するための教職課程の科目群を設置する。ただし、法学部国際関係法学科および総合政策学科については科目群を設置しない。

(司書・司書教諭課程)

図書館法に定められた公立図書館の専門職員や学校図書館に関する専門的な知識・技術を修得した教員、さらに司書としてのみならず情報社会の中で活躍する人材を養成すべく、司書資格および司書教諭資格が取得できるように司書課程および司書教諭課程を設ける。2 学年（3 学期）以降、司書・司書教諭課程登録を行い、卒業までに司書課程の所定の科目を履修し単位を修得することにより卒業と同時に司書資格を、また教職課程および司書教諭課程の所定の科目の単位を修得することにより司書教諭資格を取得できるような科目群を設置する。

入学者受け入れ方針（AP）

(求める人物像)

- 本学では、本学および出願する各学部・学科の教育目的に共感し、次の学力・適性をもつ人物を求める。
- ・高等学校段階の基礎的な知識・技能、思考力、判断力および表現力ならびに専門分野の学修に必要な学力。
 - ・大学において各学部・学科の専門分野を学修するのに十分な語学あるいは各分野への適性。
 - ・各学部・学科の専門分野に関する知識や技能を身に付け、専門的なものの見方や考え方を学びたいという意欲や態度。
 - ・将来、国際的視野に立つ教養人として社会的に活躍する意欲と倫理観。

(出願要件)

高等学校もしくは中等教育学校卒業（当該年度末卒業見込みを含む）またはそれに相当する資格（詳細は入試要項および入試概要参照）と学力を要するとともに、出願する各学部・学科が定める要件をみたすことを求める。

(入学者選抜方法)

外国語教育重視の観点から、英語などの外国語科目を重視した入試を行う。また、多彩な学生の受け入れを図るべく、一般入試をはじめとするさまざまな入試制度（詳細は入試要項および入試概要参照）を設ける。